

参考：参加者の声  
平成 25 年度アンケートより抜粋

- ・ 職員が常に問題意識を持って業務に当たっていることを痛感した (30代 A 班)
- ・ 不可能と思ってもまず提案して他者の提案と組み合わせることで実現の可能性が出た (20代 A 班)
- ・ 全学的な意識を持ち、まずは職員同士からお互いに触発し合うことを目標とした (20代 A 班)
- ・ グループ討議で設定したテーマは大学改革に有用なものであり、職場の全員にはたらきかけていきたい (20代 A 班)
- ・ 自分自身の現状を見つめ直し、主体的に学ぶことの大切さを改めて痛感した (20代 B 班)
- ・ 他大学の職員と意見交流する場が少ないのでとても良い機会になった (20代 B 班)
- ・ 職員の意識改革が重要であることが印象に残り、課題改善に努めたい (30代 B 班)
- ・ 自ら行動し、少しでも変える努力をすることで結果的に周囲を変え学生を変え社会を変える (20代 B 班)
- ・ 学生一人ひとりとコミュニケーションをとる必要性を感じ、それが問題発見につながる第一歩になる (20代 B 班)
- ・ 授業内容を知ることから始め、その中で教職員が歩み寄る働きかけを行いたい (30代 C 班)
- ・ 人材育成が大学の重要な役割だと改めて感じ、具体的なアイデアを出すことで現実的な視点を獲得することができた (20代 C 班)
- ・ 効率化は手段、ICT はツールであり、大学をより良くするのは教職員・学生の協働であることを心に留め業務に取り組みたい (20代 C 班)
- ・ 課題をまず目的化し、必要に応じて ICT を活用する手順で業務提案してみたい (30代 C 班)
- ・ グループ討議で真剣に課題解決のアイデアを振り絞って取り組むことで仲間が生まれた (30代 D 班)
- ・ 日本の大学が世界レベルに達するにはこのような大学間の取組みの重要性が増すと思った (20代 D 班)
- ・ いままでは受動的な業務姿勢だったが能動的に情報を集めてデータを数値化し、提案をしていきたい (20代 D 班)
- ・ 多様な背景を持った職員からそれぞれ多数の意見や視点が出され、織り交ざる部分を模索できた (20代 D 班)
- ・ 学生に主体的に学んでほしいという思いがあり、学生のために教職員が力をあわせて働いていきたいと思う (20代 D 班)
- ・ 自身の視野が狭かったことを感じ、さまざまな意見や考え方に触れられたことが良かった (20代 E 班)
- ・ 刺激を受けた研修でこのような場が増えると良いと感じ、大学同士切磋琢磨していきたい (20代 E 班)
- ・ 一人の発想では限界があり、他者との意見交換で新しい発想が生まれる喜びを感じた (20代 E 班)
- ・ 日本中から自分と同じ立場の仲間が集まり、一つのことに取り組めたことが特に良かった (20代 E 班)
- ・ 問題を発見し、核心を見つけ出す過程が難しく、何度もねりなおしたことが印象深く、その技術を得ることができた (20代 F 班)
- ・ 大学を取り巻く環境や学生目線の教育改革に真摯に向き合い取り組みたい (30代 F 班)